

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2015.08.No216

8月号

目次

第62回(平成31年)全国大会 国際観光都市「函館市」で開催…	1
技術ノート…	2
実行委員会報告…	5
〔会員増強特別〕	
青年・女性の窓…	6
〔No.72 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会〕	
支部だより…	7
〔小樽・富良野・北見〕	
information…	8

URL <http://www.h-ab.com/>

第62回(平成31年)全国大会 国際観光都市「函館市」で開催

全国大会(北海道大会)準備委員会から開催都市立候補の希望を確認したところ、15支部が回答し唯一開催を表明した函館支部と受入施設について検討し、5月22日開催の第2回理事会において函館市を開催地に決定しました。

今まで北海道での全国大会は4回開催しています。第2回(昭和32年)札幌市、第23回(昭和55年)札幌市、第36回(平成5年)旭川市、第50回(平成19年)帯広市となっています。ここに新たに函館市が加わります。

会場計画としては、式典・記念講演には本年8月にオープンする「函館アリーナ」を予定しています。

最大5千名が収容出来るメインアリーナ、また1千名が収容可能なサブアリーナを要する多目的施設です。各種イベントは、隣接地の函館市民会館で開催可能です。駐車場も287台あります。会場は湯の川温泉エリアの手前に位置し、路面電車の電停もあります。

宿泊施設については、湯の川温泉街、駅前大門地区、五稜郭地区などを中心に約240軒もの宿泊施設があり、客室数約1万・定員2万3千人も宿泊可能です。

交通アクセスの飛行機は、東京(羽田)・名古屋(中部)・大阪(関西・伊丹)の各飛行場から函館空港へ運航しています。また、来年3月にJRの北海道新幹線開業で、東京から4時間とますます便利になります。

国際観光都市として多数の観光スポットが、元町・五稜郭・湯の川・函館山・ベイエリア等にあり、エクスカージョンの企画は容易に出来ます。さらに、函館市観光部コンベンション推進課と、(一社)函館国際観光コンベンション協会から色々な支援を受けることができます。

このように会場施設、宿泊、交通アクセス、観光、行政支援、知名度等好条件が揃っています。全国の士会長からも期待の声が上がっています。

ヒアリング時に山内函館支部長は、「全道支部の応援をいただき、函館のカラーが出せる全国大会にしたい。」と抱負を話しています。今後は、実行委員会の組織化、開催日の決定等、急ピッチで計画案作成が進捗するものと思われます。函館支部会員を中心に全道会員の協力のもと、記録と記憶に残る全国大会を目指しましょう。(副会長 吉木 隆)



平成27年8月1日にオープンする函館アリーナ (図・パース: 函館アリーナパンフレットより)

第8回 (2015年) 日本建築学会北海道支部技術賞受賞 木造住宅の耐力壁の耐震・断熱改修技術

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部

北方建築総合研究所 環境研究部 建築技術グループ 主査 植松 武 是

1. はじめに

平成17年の中央防災会議（内閣府）において「地震防災戦略」が策定され、その減災目標を達成するため、耐震化された住宅や建築物の割合を10年間で9割とする目標が地震防災推進会議（国交省）より提言されました。その後、地方公共団体において耐震化計画が策定され、現在、計画期間である10年が経とうとしているところです。

北方建築総合研究所ではこれまで、建築物の耐震性を確保するための技術開発に取り組んできています。既存木造住宅を対象とした耐震改修技術の開発も行ってきており、そのいくつかは本誌技術レポートでも紹介させていただきました。ここでは、上述の耐震改修促進に係る戦略・計画が策定される前から開発を始め、その後、改修促進計画事業の一層の支援を図るために（一社）日本建築防災協会（以下「建防協」）の住宅等防災技術評価を取得した耐力壁の耐震・断熱改修技術を紹介いたします。

2. 開発のコンセプト

北海道では、日々の生活の中で改修の効果を実感できる断熱改修へのニーズが耐震改修のニーズを上回っています¹⁾。一方で、断熱改修が必要な既存木造住宅は、建設年代から判断して耐震性に関する問題を抱えている場合も多いのは想像に難しくありません。断熱改修時に断熱材を施工する部位は壁であり、木造住宅の主要な耐震要素も壁ですので、断熱改修工事と耐震改修工事を個別に実施すると居住者の負担は大きくなります。また、快適性だけでなく安全性の確保も求められる住宅設計・施工者にとって、断熱性や省エネ性の向上だけでなく、構造安全も同時に確保することのできる技術は有用なものになるはずですが。これに鑑みて、断熱性能と耐震性能を同時に向上させる改修技術の開発・提案を試みました。開発コンセプトは次の通りです。

- ①地域の一般工務店でもすぐに施工可能な技術とするため、特殊な断面の部材・材料を使用しない。これによりコストも抑える。
- ②施工手間・加工手間・

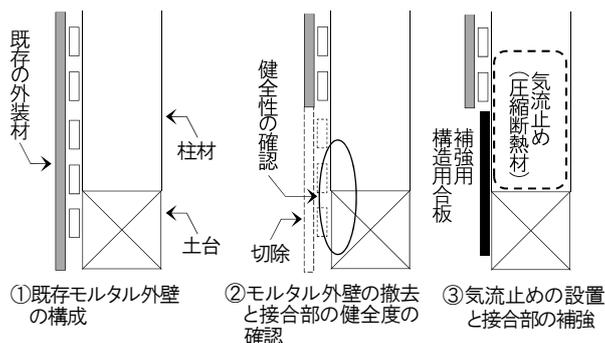


図1 構造用合板による仕口・筋かいの補強・断熱改修の手順

廃材を最小限に抑えるため、既存の断熱材や面材の残存耐力も活用する。

- ③種々の必要断熱厚さに容易に対応できるように、外張り付加断熱工法を発展させた技術とする。

3. 改修技術の概要

ここで紹介する改修技術は、次の2つの技術で構成されています。

(1) 構造用合板による仕口・筋かいの補強・断熱改修

壁の頂部と脚部の外装材をそれぞれ水平に切除し、壁内の気流止めとして、圧縮した断熱材を壁内へ横架材に接するように充填した後、この外装材切除部分を覆い隠すように構造用合板を躯体へ打ち付ける手法です（以下「A工法」。図1、写真1参照）。この時に使用する圧縮した断熱材を写真2に示します。

木造住宅においては、壁内部の冷気や暖気の流れを止めなければ、充填あるいは外張りでの十分な断熱材の厚さを確保しても、所要の断熱性能が発揮されないだけでなく、湿気の高い空気が壁内部へ吸い込まれることによって壁内結露や躯体の腐朽が発生する危険性が高まります。本技術は、壁頂部・脚部に気流止めを施すことによって壁内結露発生を抑え、

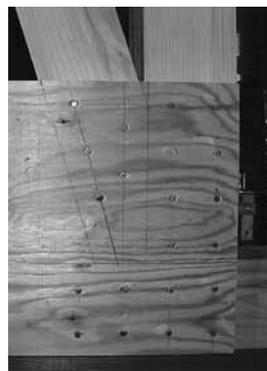


写真1 筋かい接合部の補強



断熱材を圧縮



写真2 気流止め用の断熱材

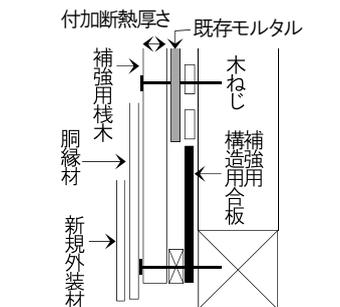


図2 既存モルタル外装を活用した耐震・付加断熱改修工法

その後の仕上げ施工時に構造用合板で接合部の耐力の向上を図るものです。上下の気流止めと既存のモルタル外装材を気密層として連続させることにより、既設の充填断熱材の本来の断熱性能も発揮させる効果も期待できます。また、施工時に、構造上重要な接合部の健全度を目視で確認することが可能です。補強のために必要な材料は、JAS規格適合品の厚さ12mmの構造用合板（1類・2級(C-D)以上）とJIS A5508(くぎ)に規定する太め鉄丸くぎのCN50のみです。

(2) 既存モルタル外装を活用した耐震・付加断熱改修

前述のA工法との併用を前提とします。A工法を実施後、モルタル外装材の上から、複数の栈木を縦に並列に当て、柱材・間柱・横架材へ指定された木ねじで固定します（以下、「B工法」。図2参照）。これにより、モルタル外装材と躯体との固定度が高まり、モルタル層が壁体のせん断抵抗力を向上させます。また、栈木は、通気層と外装材下地とを形成する胴縁材の下地に使用できます。付加断熱材は、並列する栈木の間、即ち、既存モルタルと新規外装材の間に配置することになり、栈木の厚さを外張り付加断熱厚さとできます。この技術は、既存モルタル外装材や耐力壁を撤去する必要がなく、種々の付加断熱厚さに対応できるなどの特徴を有します。また、モルタル外装材の剥落の危険性も無くなります。研究開発時には、補強用栈木の当て方として、①縦栈補強、②横栈補強、③斜め栈補強の3種類を検討していますが、まずは実用性を重視して①縦栈補強を標準仕様として普及を図ることとしました。

補強のために必要な材料は、とどまつ同等あるいはそれ以上の強度特性を有する栈木（厚さ30mm×幅45mm以上）と、指定の木ねじ（パネリードP6-130（東日本パワーファスニング株式会社））と同等以上の性能を有する木ねじです。なお、本技術を適用できる既存モルタル外装材の厚さは20mm以上で、軽量モルタル外装材の場合は適用外となっています。

4. 耐震改修の効果

(1) A工法

A工法で補強した仕口と「補強金物CP-T」で補強した仕口の引抜実験の結果の一例を図3に示します。これらの結果より、A工法で補強した仕口は、現行の建防協の耐震診断法²⁾において「補強金物CP-T」と同等の性能を有するものとみなして耐震診断を行うことが認められています。また、A工法で補強した筋かい壁（3つ割り筋かい）と補強金物（BP+VP）で補強した筋かい壁のせん断実験の結果の一例を図4に示します。これらの結果より、A工法で補強した筋かい壁（3つ割り筋かい）は、現

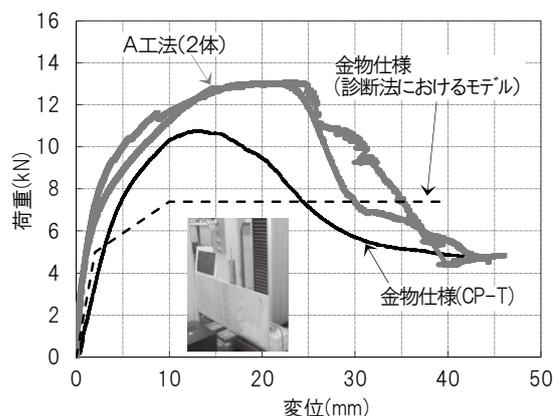


図3 A工法で補強した仕口と補強金物（CP-T）で補強した仕口の性能比較

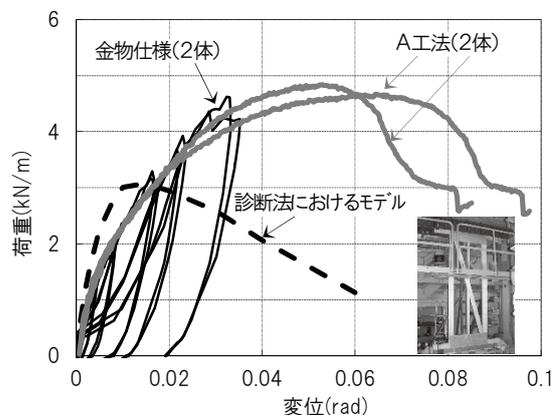


図4 A工法で補強した筋かい壁と補強金物（BP+VP）で補強した筋かい壁の性能比較

行の建防協の耐震診断法において「筋かい 木材30×90mm以上」と同等の性能を有するものとみなして耐震診断を行うことが認められています。

(2) B工法

縦栈補強を施したモルタル外装壁試験体のせん断実験から得られた骨格曲線の一例を図5に示します。同図には、無補強のモルタル外装壁試験体と、脆い木ねじを使用して補強したモルタル外装壁試験体の実験結果を併記してあります。本技術により補強を施すことで、モルタル外装壁の耐力が劇的に向上することが確認できます。また、補強した試験体について、指定した粘り強い木ねじを用いた場合と脆い木ねじを用いた場合とを比較すると、大変形領域で大きな差がでていいることもわかります。これらの実験結果から耐力壁の諸構造性能指標値を算出すると図6のようになります。建防協の耐震診断法で用いられる壁基準耐力（平成24年の改訂前までは「壁強さ倍率」）は、これら算定した指標値の中の「終局耐力・靱性」で決定されます。これは、建防協の耐震診断法は、大地震時の倒壊の可能性の有無のみを判定することを目的としているためです。同図によると、脆い木ねじを使ってしまうと、壁基準耐力は指定した木ねじを使った時の半分以下になってし

まうことがわかります。図5で確認した大変形領域での差が、壁基準耐力に直接的に反映されることから、指定した木ねじを使うことの必要性和重要性が理解できると思います。なお、新築設計時に用いられる壁倍率は、図6に示した4つの指標値の中の最小値から算出することになっています。また、既に壁倍率を有する耐力壁については、便宜的にその値を1.96 (kN/m) 倍して壁基準耐力として用いて良いことになっています。

B工法で補強したモルタル外装壁試験体と補強していない試験体のせん断実験時の損傷状況を写真3に示します。補強を施さないモルタル外装壁試験体においては、モルタルは損傷していないものの、躯体との剥離は進行しており、剥落による通行人への被害や交通障害を引き起こす確率が高まっています。これに対し、縦棧を介して木ねじでモルタル外装材を躯体へ留め付けた試験体では、躯体のせん断変形時にモルタルにも大きなせん断ひび割れが発生しています。このことから、モルタル外装材と躯体との一体化が図られており、躯体の変形エネルギーがモルタルへ有効に伝達されていることがわかります。モルタルに大きなせん断ひび割れが生じていますが、縦棧の抑え込み効果により剥落することはありません。これらの実験結果より、壁基準耐力7.1kN/m、壁基準剛性1,609kN/rad/mを得ましたが、これに、既存下地（ステープル・木ずり）の留め付け耐力に応力負担を期待しないための低減率とモルタル物性値等の不確定性を鑑みての安全率を乗じた次の値が、耐力要素としての性能値として認められています。

壁基準耐力 3.8kN/m
壁基準剛性 860kN/rad/m

5. まとめ

本技術の詳細な仕様は参考文献³⁾をご参照ください。本稿で紹介した技術は、平成18年度に建防協の住宅等防災技術評価を取得し、平成24年に評価の更新を受けました⁴⁾。この間、「建築物の耐震診断及び耐震改修に係る(知事)指定講習会」⁵⁾を通じて道内技術者へ普及を図ってきました。最近では、(一社)全国工務店協会(略称「JBN」)の取り組み(平成24年度国交省助成事業「木造住宅等の施工能力向上・継承事業」)においても活用されています⁶⁾。学術分野においても、平成27年の日本建築学会北海道支部技術賞を受賞し、各地域への本技術の普及と継承が期待されています。現在、共同研究機関であるNPO法人住宅外装テクニカルセンター(略称「JTC」)が、厚さ15mmとなるモルタル外装材や、他の木ねじでも適用できるようにするための技術評価取得手続きを行っています。

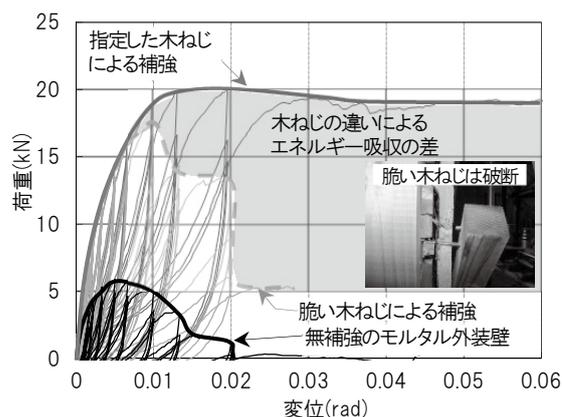


図5 補強効果：B工法

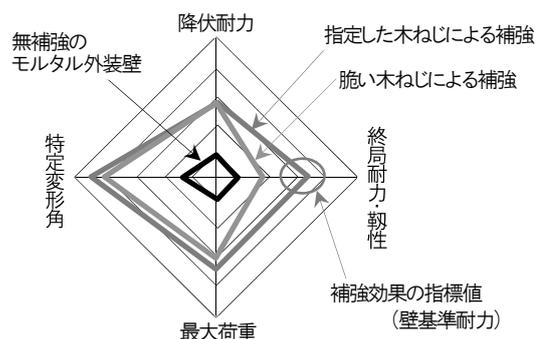
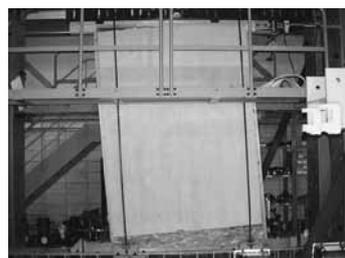
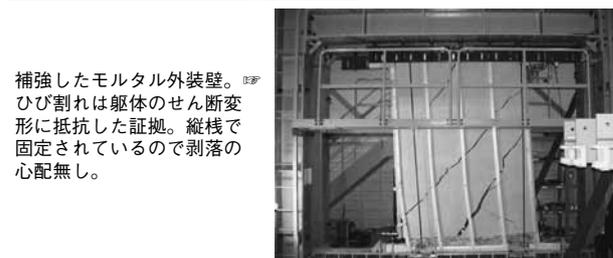


図6 壁の耐力に係る指標値の比較：B工法



補強しないモルタル外装壁。モルタル自体は健全なまま、躯体からの剥離が進行。剥落の危険性大。



補強したモルタル外装壁。ひび割れは躯体のせん断変形に抵抗した証拠。縦棧で固定されているので剥落の心配無し。

写真3 モルタル外装壁の損傷状況：B工法

【参考文献・参照情報】

- 1) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所：住宅の性能向上リフォームマニュアル 改修計画編、2012.3、<https://www.nrb.hro.or.jp/pdf/kaishuu.pdf>
- 2) (一財)日本建築防災協会：2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法、2012.6
- 3) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所：住宅の性能向上リフォームマニュアル 耐震・断熱改修方法編、2012.3、<https://www.nrb.hro.or.jp/pdf/taishindannetu.pdf>
- 4) <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksd/anzensuisin/meibotouroku.htm>
- 5) <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksd/gizyutuhyoka.htm>
- 6) (一社)全国工務店協会：既存住宅の性能向上リフォーム 耐震・断熱で生まれ変わる家、2013.3

道東ブロック 会員増強対策について

会員増強特別委員会

委員 庵 敏幸（北見支部）



私たち北海道建築士会の会員数は、正・準会員を含め平成5年8,404名、平成15年6,758名、平成26年4,297名と約半減となっております。特に、会員増強テーマは設計事務所協会及び道内の商工会、会議所等も大きな課題となっており、今日の人口減に伴い、各組織の運営が、会員の高齢化等存続に多大な影響を与えております。

本部の会員増強特別委員会は、対策の第一弾として、入会申込書付きリーフレットを作成し、特に、士会の社会的活動、各種情報等のメリット、全道各支部内における横の繋がりや仲間等の内容を盛り込み、用意いたしました。

会員増強は、道内4ブロック会議議題のテーマの一つであり、道東ブロック10支部においては、若い人の発掘に大変苦勞している現況もあり、特に行政関係者の未加入が多いとの報告もあります。

また、新入会員対応として、総会で演壇に上がって頂き、会員に紹介している支部、また、ビールパーティ等のレクリエーション時に対応している等と新入会員のおもてなしに重点を示している支部が報告されておりますが、各支部とも地域にて、建設業会も含め、誰が士会員対象者なのかが不明な点が問題で、建築士試験の合格者が地域でいるのかわからないと言われております。

建築士試験の近年データによると、初めに全国で一・二級建築士試験合格者数は、平成22年12,182名、平成24年10,391名、平成26年9,667名と年間約1万人前後が生れてきております。その内北海道は、平成

22年339名、平成24年251名、平成26年226名と全国の合格者の約2.7～2.3%が道内の合格者数となっております。

次に平成25年北海道内の建築士登録者数と士会員の入会率では、一級建築士登録者数12,339名で士会員2,268名（入会率18.4%）、二級建築士登録36,992名で士会員2,001名（入会率5.4%）、木造建築士登録618名で会員29名（入会率4.7%）の合計15,225名が建築士登録されており、士会員数は、正・準会員合計で4,558名で、入会率は29.9%となり、建築士登録者数の約3割でのみで運営されている現況であります。

また、昨年の一級建築士試験合格者の内、女性が約21%、二級建築士試験では33%となっております。そこで加入率UPについて、一部の支部では、役員会等のテーマとして、女性理事も含め議論を深めている事例もあり、中長期的なビジョンも組立て始めている様子です。

本部の会員増強特別委員会では、対策の第二弾の素案として、現在本州の一部士会での事例を参考に一級建築士免許証明書の交付式を実施し、郵送等よりも早く本人に手渡し出来ると同時に当士会への入会を声掛け実施すること等を調査し、検討している現況です。

また、受験データに示すように、女性建築士が大変多く生れている中で、いかに多くの女性が入会希望される事例等も早急の検討課題であります。

日本は、災害の多い国土であり、近年、行政側から士会員に対し、業務アプローチが多くなっており、一例として応急危険度判定における建築士の災害時対応等、地区・地域での役割も求められる時代に入っております。

従来への街づくり参加型から、一枠大きくなってきておりますので、ますます建築士、そして本土会員の増強が急務になっている現況をお伝えし、終わらせて頂きます。

道士会の動き

平成27年度(一社)青森県建築士会野辺地大会 強風雨にめげず盛大に開催される

「建築士の日」記念大会として27回目となる野辺地大会が6月27・28日に「南部・津軽に鼓動が響く地に集え建築士」の大会テーマのもと開催されました。当日は式典前に見学会と親善ゴルフ大会が予定されていましたが、強風雨のため初めてゴルフ大会が中止となりました。一方、野辺地中央公民館で町内3校の小学生から応募があった“こんなお家にしてみたい！「青森の住宅」コンテスト”の404点の全作品が展示され、悪天候のなか親子が連れ立って作品を鑑賞していました。この事業は3年目でまちづくり・女性・青年の三委員会が合同主催しています。将来建築士を目指す子供たちへの動機付けとして、今後も継続していくとのことです。新聞、ラジオの取材が多いことから、知名度がアップされています。式典に先立ち「青森の住宅」コンテストの

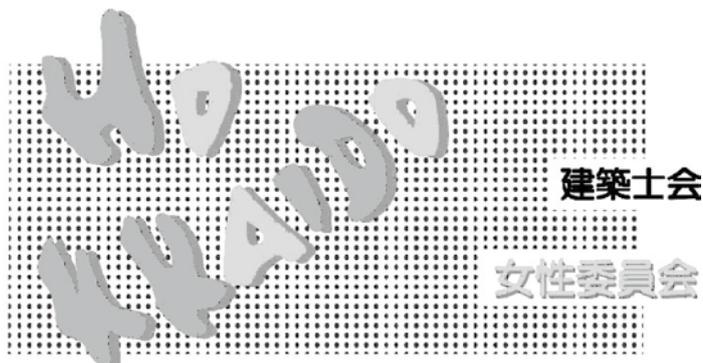
金・銀・銅賞の表彰式が行われ、緊張した子供たちが表彰状と副賞を川島会長から受け取っていました。

式典では、青森支部青年委員の地域実践活動「建築ウォッチング」が報告されました。各職種団体を巻き込んだ取り組みに、約5百人の参加者があり、評価が高かったとのことです。懇親会では、北海道と縁がある、沖揚音頭（鯨漁労の作業歌）が野辺地町保存会の皆様により披露されました。懇親会終了後は、町内のお店に繰り出し地域活性化が図られました。翌日は野辺地の名産品「活ホタテ釣り大会」が行われました。今年も青森県の皆さんと、紋別大会で交流しましょう。



(副会長 吉木 隆)

No. 72



「勉強会／パーソナルカラー」

旭川支部 川田 朱

「自分に似合う色は？」と聞かれても直ぐに答えるのは難しいですが、質問を「好きな色は？」に変えると簡単に思い浮かびます。でも、「好き＝似合う」ではないのかも…。

女性委員会旭川支部では、毎年新年度に女子力UPの勉強会が開催されます。今年、『パーソナルカラー（似合う色）』についてでした。

仕事で内外装をコーディネートする機会があるので、色についてはそれなりの知識はあるかなあと考えていたのですが、自分のこととなると、意外と無難にまとめてしまっていることが多いことに気が付きます。「好きな色＝似合う」とも思っていました。「どっちが似合う？」なんて、通いなれたお店もないし、このブランドのコンセプトには自分は対象外かも…と、意外にもネガティブトラップに陥りがちな性格なので、店員さんにも聞いたこともありませんでした。



勉強会では、前半、色のグループやイメージ等、基礎的なことを学びました。

後半は3名の会員がモデルとなって実際に数十枚のドレープと呼ばれる布を体に当てながら色が放つ光源についての変化を学びました。個性である肌や目、髪の色などの違いによって三者三様、同じドレープを当てても明るくなったりくすんでしまったりと、光源に影響を受けることがわかりました。

似合う色を身に付けることが、その人の良さが引き立ち、周りの人にも笑顔を与えることができることを実感しました。同時に私も機会を作って「パーソナルカラー」をみつけて毎日ワクワクできたらいいなあと心を動かされました。



勉強会の後は、講師を囲んでの食事会でした。おいしい料理に舌鼓、おなかも心も幸せに満たされました。特に印象的だったのが、食後のデザートプレート。

「色」について勉強したこともあり、旬の食材の個性を活かしたプチスイーツたちが、宝石のようにちりばめられていて、「おいしさ」の魅力を「色」が更に引き立てているように感じました。

幸せがいっぱい詰まった勉強会で益々女子力に磨きがかかった私たち、今年も一年間、元気に活動していきます!!

連載第2回(全4回)

ライフオーガナイザーについて

1級建築士・ライフオーガナイザー
函館支部 岩崎 美乃

今回はレジデンシャルオーガナイザーについてです。

片づけられない原因には、住まいが関係している場合もあります。

例えば、「居間のクローゼットが奥行きが深くて使いにくい。」そのような場合、ここに何を収納するのが、設計する側に伝わってないことが考えられます。

建築を計画する段階で、「思考、行動、時間、空間、モノ」を住む人自身がコントロールし、心地よく、または効率よく過ごせるようにすることが重要なのですが、そのような様々な側面からサポートするのがレジデンシャルオーガナイザー（建築やインテリアの専門知識を持つライフオーガナイザー）なのです。

具体的には、施主様のしたい暮らしの明確化といったところでしょうか。

現状の住まいを俯瞰して、問題点や改善点を提案し、時間と行動の特性を把握します。収納についても持ち物の調査をして、その持ち物をどこにどのように収納するのが適切なかを分析、提案し、それをもとにプランニングやサポート等を行います。

施主様にとっても、自分を知り、自分と行動とモノの関係が理解できると、新しい住まいで「モノが散らかる」ことがおさえられ、快適な住まいを維持しやすくなります。

その結果、住宅への満足度も上がり、作り手の評価にも影響してくると考えられます。

今回は時間についてです。

小樽支部

今年も暑い夏は、サマーパーティーで盛り上がり、親睦深めます!!

青年委員会副委員長
近藤 真人



原稿執筆依頼を受け、早2週間余り…何も思いつかず本日に至りました。今年も8月8日に行うサマーパーティーの支度を開始した所でございます。昨年同様に小樽某所の会場にて、ゲストのバンドさんたちと、仲間の酒屋さんとタイアップをし、楽しいサマーパーティーにしたいと企画中です。毎年のことですが、小樽支部のサマーパーティーは、青年委員会の

主導の下、街づくり委員会をはじめとする小樽支部皆様方の熱い支援があり成り立っているイベントの一つであります。建築業界に携わる方々はもちろん、多くの一般市民の皆様も参加され毎年楽しく行っております。青年委員会のメンバーで、接客やオーダーを聞いて回ることもあり、メンバーの意外な一面も伺えることもあります。また毎年参加されているご婦人たちの切れのあるダンスも魅力(笑)です。バンドのメンバーも私たちが、企画したサマーパーティーのために結成された様なお

話を聞いており、他のオールイズのイベントにも参加されているとのこと、良い伝統は引き継ぎ、さらにアイデアやひらめきを尊重し、次回の企画立案に生かせるように今後も行って行きたいと思っております。昨年は来場者150名余りでしたが、今年はもう少し、来場者を多くしたいと、青年委員会メンバー同士で声掛PR活動を行い、昨年より盛り上がるサマーパーティーを企画しております。「今年の暑い夏は小樽から始まります!」

富良野支部

「建築士の日」記念支部事業

事務局長
中村 勝利



支部設立時より事務局長として建築士会と関わり早や41年、来年の3月には卒業を迎える。

最後の会誌への原稿書きだが、支部だよりとしてお知らせするネタは、今時分「建築士の日」に因んだ話題かな。特徴的な事業計画の無い支部にとってラッキーな時期の原稿依頼と感謝しています。

6月27日、記念事業として昼間

パークゴルフ、夜ビールパーティを開催し、パークに22名、ビールパーティに200名ほどの会員、家族、建設関連職場の皆さんの参加で楽しい時を過ごさせていただきました。

27回目、親睦ビールパーティは、賛助会員の協力もあり、抽選会での景品の数と内容でビールパーティの数が多い富良野においても市民に人気の高い催しとして定着し、建築士会という組織も知られるようになっております。

しかしながら正会員、賛助会員

共年々減少し、新たな加入者が少ないことから超高齢化集団となっており、将来支部消滅の危機も感ずるところであります。

この流れの打開策として、これまでの事務局の運営を他支部に遅ればせながら、市役所から民間企業内へ移行し、組織活性化に向けた新たな取り組みが新年度よりスタートができるよう自分の卒業までの残された仕事として今、支部理事会での協議を進めております。そうした状況も支部の動きとしてお知らせさせていただきます。

北見支部

北見支部のこれから

事務局長
酒井 幸治



建築士会に限らずいろんな団体で、会員数が伸び悩んでいるという話を聞く。日本の人口が減少している流れの中では、ある意味自然なこととも言えるのではないかな。

会の運営上、数は常に意識するところであるが、会員の満足度や社会に対する貢献度、そして、これから建築の道を志す少年、青年に対して夢や希望を与えることが出来ているかどうか気がなる。

数字で表すことは容易ではないが、それが高まれば結果として、「会員数が増えていた。」となるのではないだろうか。明るく活力のあるところには自然と人が集まってくるように思う。そのような活動とはどのようなものか。

既存の組合せから新しいものが生み出されることもある。北見には北見工大と日赤看護大学の2大学があり、支部の理事会ではこれらの大学と連携が出来ないかという意見も出された。問題意識を共有する社会的な課題について意見交換することも考えられるし、学

生から見た北見の街についてざっくりと意見交換するなどいろいろ出来そうな気がしている。

支部の理事会では今年後半の事業実施に向けて具体的な話し合いを持つ予定である。中長期的なビジョンについても話し合い、未来へ向けたイメージを少しでも膨らませることが出来ればと思う。

女性部会、青年部会の活動も活発でいろいろなアイデアを出して実践しており、支部のこれからが楽しみである。

道士会の動き

道本部の主な会議報告（7月）

◆CPD・専攻建築士審査評議会

（開催日）7月6日（月）

（議題）

- 1) 継続能力開発（CPD）制度の参加状況について
- 2) 継続能力開発（CPD）プログラム認定状況について
- 3) 専攻建築士制度の認定状況について（報告）

◆第2回まちづくり委員会

（開催日）7月18日（土）

（議題）

- 1) 全道大会紋別大会について
- 2) 景観整備機構について

◆第2回総務委員会

（開催日）7月25日（土）

（議題）

- 1) 会員増強について
- 2) 全道大会における本大会と青年のサミットのあり方について
- 3) CPD・専攻建築士について（報告）

◆第2回女性委員会

（開催日）7月26日（日）

（議題）

- 1) 全道大会について
- 2) 住教育実践業務「建築士による家庭科住教育出張講座」
- 3) 会誌（広報Hokkaido）の企画

道本部の主な行事予定（8月）

■ 1日 第2回情報委員会

■ 8日 第2回青年委員会

図書案内

【民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類】（書式・約款）

販売のご案内

【民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類】（書式・約款）

◎A4版

◎会員価格486円（税込） 定価540円（税込）

【図書問合せ先】

（一社）北海道建築士会 011-251-6076

編集後記

8月の北海道は各地で夏祭りが賑やかに開催され、短い夏を楽しむ1ヶ月。そして2級建築士試験学科の発表の月です。

皆さんはその頃を覚えていますか。建築士という資格に夢や希望そして「あこがれ」を持って試験に臨んでいたと思います。

4年後には北海道で全国大会が開催されます。私にとって建築士とは、建築士会員であることは、を考える機会にしたいと思います。 情報委員会 早川 陽子

CPD認定プログラム（7月認定）

認定は、ありません。



会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ①CPD情報システムにログインをします。
- ②士会用メニューより「認定教材研修申請」を押します。
- ③CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④プルダウンメニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤設問への解答を選択します。
- ⑥入力後、「次へ」を押します。
- ⑦確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

CPD 自習型認定研修の設問

P2-P4 技術ノート

（木造住宅の耐力壁の耐震・断熱改修技術）



北海道建築士 No.216

2015/ 8/ 1 単位：1

設問 「壁基準耐力」に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- a. 木造住宅の新築設計時に用いられる壁体の構造性能指標値であり、壁倍率と同じものである。
- b. 木造住宅の耐震診断時に用いられる壁体の構造性能指標値であり、その値は壁体の最大せん断荷重によって異なる。
- c. 木造住宅の耐震診断時に用いられる壁体の構造性能指標値であり、その値は壁体のせん断終局耐力・靱性を反映したものである。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。

各支部からのお知らせ

〈札幌支部〉 TEL 011-232-1843

「二級建築士受験者講習会（設計製図）」

8月30日（日）9月6日（日）かでの2.7

情報委員会委員長／神田 光英

副委員長／齋藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利

委員／高松 徹・熊谷 智・柳山美保子

鈴木 雅人

北海道建築士 No.216号

印刷 平成27年7月／発行 平成27年8月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地

大五ビル

電話 (011) 251-6076番

URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎

〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目

電話 (011) 811-7151番